

冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 議事録

日時： 令和4年7月14日（木）9：00～10：20

場所： ORE 札幌ビル 7階会議室C

出席者：

○委員

勝木 紀昭	委員	(公財) 北海道・札幌スキー連盟	会長
畠山 五郎	委員	(一財) 北海道スケート連盟	
新保 實	委員	札幌スケート連盟	
大越 孝彌	委員代理	(一財) 北海道アイスホッケー連盟	専務理事
塚田 豊彦	委員代理	(一財) 札幌アイスホッケー連盟	専務理事
前田 直樹	委員代理	北海道・札幌リュージュ連盟	常任理事
宮越 武志	委員代理	北海道カーリング協会	事務局長
小野 丘	委員	(一社) 札幌カーリング協会	会長
出口 弘之	委員	北海道・札幌バイアスロン連盟	会長
浅香 博文	委員	(一社) 札幌市障がい者スポーツ協会	会長

○関係者

鏡 法裕		北海道環境生活部スポーツ局スポーツ振興課 オリンピック・パラリンピック連携室長	
片寄 正樹		札幌医科大学保健医療学部長	
石川 義浩		(一財) 札幌市スポーツ協会	理事長

○随行者

野長瀬 隆		(一社) 札幌カーリング協会	副会長
佐藤 浩		(一社) 札幌カーリング協会	事務局長
酒井 陽一		北海道・札幌バイアスロン連盟	

○事務局職員

石川 敏也		札幌市副市長	
梅田 岳		札幌市スポーツ局長	
小泉 正樹		札幌市スポーツ局招致推進部長	
須志田 健		札幌市スポーツ局招致推進部計画担当課長	
江澤 幸介		札幌市スポーツ局招致推進部計画調整担当課長	

欠席者：

石橋 弘次	委員	(一財) 北海道アイスホッケー連盟	会長
外崎 一馬	委員	(一財) 札幌アイスホッケー連盟	会長
石川 裕一	委員	北海道ボブスレー・スケルトン連盟	会長

五十嵐 徳美 委員	札幌ボブスレー・スケルトン連盟 会長
伊藤 徹 委員	北海道・札幌リージュ連盟 会長
貝森 輝幸 委員	北海道カーリング協会

次第：

1 開 会

2 勝木会長挨拶

3 石川副市長挨拶

4 議 事

(1) 機運醸成

(2) 選手育成

(3) スポーツ医科学コンソーシアムの検討について

5 意見交換

6 閉 会

〈配布資料〉

資料1 座席表

資料2 冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 委員名簿

資料3 説明資料

資料4 総合型ハイパフォーマンススポーツセンター構想（案）【概要版】

発言者	発言要旨
1 開 会	
勝木会長	定刻により、これから冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議を始めさせていただく。
2 勝木会長挨拶	
勝木会長	<p>皆様、本日はお忙しい中、出席賜り感謝申し上げます。また、多くの報道機関の方にもお越しいただき感謝申し上げます。</p> <p>本日お集まりいただいたのは、3つのポイントがある。</p> <p>まず、今年3月に実施された市民意向調査の結果を踏まえ、冬季オリンピック・パラリンピック招致について、更なる機運醸成を行っていく必要がある。全国的には、北海道・札幌2030プロモーション委員会が立ち上がり、JOC・行政が積極的に動いているところである。</p> <p>続いて、関係団体・関係者の連携体制の確認についてである。経済界では、北海道・札幌の発展のためという認識で連携している。また、競技団体としては、健常者だけではなく、パラリンピアンの方たちへの応援体制も適切に構築していき、バリアフリーの観点からも2030年大会をまちづくりの中間地点の目標地として捉えたい。</p> <p>そして、競技団体関係者の方たちにおいては、大会開催に向け、選手強化に着手していただき、また、各競技団体間で連携し、競技の枠を超えた選手強化についても検討していただきたいと考えている。</p> <p>北海道・札幌2030プロモーション委員会では、今後、全国のスポーツ団体との連携も計画されている。このような中で、北海道・札幌の競技団体の連携を確認するべく、本日会議を開催させていただく。本日は、限られた時間ではあるが、活発な意見交換をお願いしたい。</p>
3 石川副市長挨拶	
勝木会長	本日の進行については、私が行わせていただく。まずは、石川副市長から挨拶をお願いしたい。
石川副市長	<p>本日は大変お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。皆様には日頃からアスリートの支援・育成をはじめ、2030年大会の招致活動に多大な協力をいただき、この場を借りて重ねて感謝申し上げます。</p> <p>さきほど、勝木会長の挨拶にもあった通り、2030年大会の招致活動は、住民の支持率が大変重要になってくる。そのためにも開催意義を多くの方々に伝え、理解・共感を得ていくことが大切になる。</p>

	<p>今年5月に、オールジャパンで招致機運を高めていくため、プロモーション委員会をJOCと道内関係団体とともに設立したところである。</p> <p>今後、企業や関係団体とも連携しながら、招致機運を高めてまいりたいと考えているため、本日お集まりいただいた次第である。</p> <p>ウインタースポーツの競技団体においては、未来を担うジュニアアスリートをはじめ、オリンピック・パラリンピックに出場したいという選手の声を代弁していただくとともに、少年団活動を通じて、広く市民・道民の皆様にはオリンピック・パラリンピック開催の意義を伝えていただければと思っている。</p> <p>2030年大会の招致活動において、お集まりいただいた皆様の協力が必要不可欠である。是非とも、未来のオリンピック・パラリンピアンが、札幌の地で多くの道民・市民の支援を受けながらプレーをする姿を夢見ながら、これから皆様と力を合わせて、招致の機運醸成に努めていきたい。何卒お力添えをよろしくお願い申し上げます。本日は限られた時間ではあるが、活発な意見交換をお願いしたい。</p>
<p>4 議 事</p> <p>(1) 機運醸成</p>	
勝木会長	<p>各競技団体関係者の皆様からの発言は、3つの議題の説明後に行うため、了承いただきたい。</p> <p>それでは、議題(1)機運醸成について、梅田局長から説明いただく。</p>
梅田局長	<p>まず、本日の出席者であるが、委員名簿のとおりである。なお、ボブスレー・スケルトン連盟の城田理事長が急遽欠席となっている。</p> <p>それでは、資料に基づき、説明させていただく。お手元に配布しているパワーポイントの資料をご覧いただきたい。また、こちらにはモニター画面もある。</p> <p>(梅田局長から資料3【議題(1)機運醸成】について説明)</p>
<p>4 議 事</p> <p>(2) 選手育成</p>	
勝木会長	<p>続いて、議題(2)選手育成について、北海道の鏡室長と、梅田局長から説明いただく。</p>
鏡室長	<p>(鏡室長から資料3【議題(2)選手育成】(北海道部分)について説明)</p>

梅田局長	(梅田局長から資料3【議題(2)選手育成】(札幌市部分)について説明)
4 議事 (3) スポーツ医科学コンソーシアムの検討について	
勝木会長	続いて、議題(3) スポーツ医科学コンソーシアムの検討について、梅田局長と、スポーツ医科学コンソーシアム検討委員会の委員長を務めている札幌医科大学保健医療学部の片寄学部長から説明いただく。
梅田局長	(梅田局長から資料3【議題(3) スポーツ医科学コンソーシアムの検討】(札幌市部分)について説明)
片寄学部長	(片寄学部長から資料3【議題(3) スポーツ医科学コンソーシアムの検討】(片寄学部長部分)について説明)
5 意見交換	
勝木会長	<p>ここからは意見交換とさせていただきます。</p> <p>まずは、北海道・札幌スキー連盟の私から発言させていただきます。</p> <p>冬季オリンピック・パラリンピック招致に関しては、7月26日に第3回プロモーション委員会、翌日7月27日に招致期成会総会を行い、さらなる機運醸成を図っていくこととなる。</p> <p>スキー連盟としては、資料20ページにあるとおり、8月6日に開催されるサマージャンプで子どもたちや身体障害者の方たち等、様々な方たちを招待し、ジャンプを観ていただくことを予定している。オリンピックによるトークショーも行い、盛り上げることを考えている。また、スキー連盟の加盟地区団体、評議会し、全道各地の選手に来ていただくことを想定している。今後、我々がスケートやカーリングの大会へ見学に行くなど、競技の枠を超え、様々な連携を図っていきたいと考えている。</p> <p>選手育成に関しては、さきほど片寄学部長から話があったとおり、NTCで実践されていることがジャンプの好成績に大きく寄与していると理解をしている。先日、橋本聖子先生と対談したなかで、NTCについて語っており、スピードスケートでは医科学の知見を積極的に取り入れたことにより、良い結果が出ているとのことであった。</p> <p>ここからは時計回りで各競技団体から発言をいただきたい。</p>
新保会長	札幌スケート連盟は組織として30名程度いるが、ここ3年、私から若

	<p>い役員に説明する機会をなかなか得られなかった。</p> <p>札幌スケート連盟は昨年で 100 周年を迎えたが、コロナで祝いできていない。今年春先からコロナが落ち着いたこともあり、8月6日に100周年の祝いを行う予定である。当日は橋本聖子先生にも出席いただく予定。その際、橋本先生から2030年大会についてもお話があると思う。</p> <p>競技団体連絡会議を発足時から存じており、100周年を機に、更に2030年大会招致に向けて、札幌スケート連盟として動いていくことを若い役員にも伝えたい。</p>
塚田専務理事	<p>札幌アイスホッケー連盟は一年前に現体制になった。これまでは、コロナ禍ということもあったが、今後はオリンピック・パラリンピック招致に向け、しっかりお手伝いをしていきたい。</p> <p>当連盟の活動状況は、コロナにより大会が思うように開催できていなかったが、今年度は通例夏ごろに開催している札幌市民スポーツ大会を、7月1週目から開催している。</p> <p>オリンピック・パラリンピック招致の機運醸成に関しては、現在進めているホームページの刷新時に、2030年大会招致と連動したかたちとしたい。</p> <p>選手育成に関しては、少年団、小学生、中学生の育成を行っており、今年度は特に中学生男子の強化に力を入れている。コロナ禍でできていなかった子供たち向けのアイスホッケーの体験会を8月に予定していたり、学校から課外授業でのアイスホッケー体験を依頼されていたりもするため、そういった活動の中で、招致関係のPRを盛り込んでいけるようやっていきたいと考えている。</p>
前田常務理事	<p>当連盟は、近年の競技人口の減少や役員構成員の高齢化により、今後の運営体制を検討する時期にきている。今回の冬季五輪の招致については、連盟存続の重要な機会と捉えており、機運を高めることは非常に大切なことと考えている。当連盟の活動としては、藤野リージュコースにて、選手の発掘・育成、一般の体験会等を開催し、リージュ競技の普及を行っているところである。一般の参加者にも、オリンピック・パラリンピック招致について理解を促し、藤野でリージュ競技、ボブスレー・スケルトン競技を今後もできるということも併せて説明していきたいと考えている。</p>
宮越事務局長	<p>先の北京大会では、各関係者の支援により銀メダルを獲得できたこと</p>

<p>小野会長</p>	<p>感謝申し上げたい。現在、当協会では、ジュニアアスリート育成事業に取り組んでおり、そのなかで、さきほどお話があったスポーツ医科学を取り入れ、今月末にはメンタル面の指導を受ける予定である。</p> <p>2030年大会に向けた選手強化として、北海道カーリングツアーを新たに開催する予定で、道内4施設を廻る大会となる。この大会を世界に発信し、世界と繋がる大会にしたいと考えている。YouTubeやSNS等を活用し、カーリングファンへ情報発信を行っていきたいと考えている。オリンピック・パラリンピック招致もこれに関連付けて行っていきたいと思っている。</p> <p>スポーツをやる人、観る人、支える人を大事にするということがスポーツの原点である。</p> <p>1つ目のやる人については、札幌カーリング協会の登録会員は400～500人程度であるが、カーリング場は札幌に一つしかなく、シートの抽選の倍率は100倍となっているため、カーリングをやりたい人の大半はできていないのが現状。札幌市に対応いただければありがたい。</p> <p>2つ目の観る人については、付加価値を提供できるような施設整備をしていかなければならないと考えている。</p> <p>3つ目の支える人については、お金を出すスポンサーだけではなく、理解をしてくれる人も支えてくれる人である。しかし現状、理解してもらうための情報が少ないことから、そこを重点に情報発信をしてくべきとも考えている</p>
<p>出口会長</p>	<p>日本バイアスロン連盟含め、全ての機運醸成について協力していく考えである。当連盟では、2030年大会の機会を捉え、競技団体の存続を意識し、10年計画を作成した。これまでできていなかった選手強化については、レーザー銃により子どもたちにも強化ができるようになった。行政等によるジュニア発掘・育成事業によって、クロスカントリーやバイアスロンを続ける子供たちも増えている。雪のないところでもバイアスロン選手を育成していきたいと考えている。また、スポーツによる人間力育成の観点も10年計画に取り入れている。</p> <p>HPSO誘致がもし実現した際は、一般の方たちにも見ていただけるような施設となれば、市民にとって有益な場になるのではないかと考えている。</p>
<p>浅香会長</p>	<p>パラリンピックは約30年前から夏冬ともにオリンピックを開催した</p>

<p>石川理事長</p>	<p>都市・会場で開催される特殊な大会である。また、パラリンピックは、視覚障害と手足が不自由な方に限られた大会である。夏の大会は卓球やマラソンは知的障害の方も出場しているが、ほとんどが視覚障害と手足が不自由な方しか出場することができない。</p> <p>札幌の知的障害の選手で、世界大会で優秀な成績を取めている選手もいる。すべての障がい者が参加できる大会ではないので、パラリンピックを他人事として捉えている障害区分の方もいる。将来的には、聴覚障害や知的障害の方も出場できるパラリンピックになってほしい。</p> <p>なお、札幌市と連携し、障がい者スポーツセンターの建設について、委員会を設け検討を進めているところである。</p> <p>当協会は、令和2年4月にさっぽろ健康スポーツ財団と札幌市体育協会が合併統合し、札幌市スポーツ協会として新たにスタートした。</p> <p>機運醸成は、冬季競技の競技団体だけではなく、夏季競技の競技団体にも協力してもらう必要がある。8月以降に札幌市民スポーツ大会が約45大会程度開催される。各競技団体の方が、のぼりやチラシの配布などに取り組んでほしい。各競技団体主催の大会においても、協力をしていただきたい。</p> <p>10月2日に札幌マラソンでブースを設ける予定であり、また、オリンピックを招いて講演会などを実施できるよう進めている。</p> <p>ジュニア選手の育成については、夏季種目は陸上、バドミントン、テニス、冬季競技はスノーボード、ノルディック複合、カーリング、ジャンプ、フリースタイルの選手育成を行っている。各競技団体に競技の指導面で協力していただきたい。</p>
<p>大越専務理事</p>	<p>1972年にスケート連盟からアイスホッケー連盟が独立した。「札幌から札幌へ」というスローガンを掲げて活動している。</p> <p>ホームページへ2030年大会のバナー設置、道内すべてのアイスアリーナにポスター設置などを実施予定である。</p> <p>コロナなどに対して、安全面を重視して選手育成や大会開催をしていく。</p> <p>2030年大会は、未来の子供たちに有意義なものになるよう関係団体で協力して進めていきたい。</p>
<p>畠山会長</p>	<p>伊藤会長時代から、競技団体連絡会議に参加させてもらっている。</p> <p>札幌スケート連盟100周年記念イベントに橋本聖子さんが来るが、そ</p>

	<p>の翌日に旭川で講演をする予定である。旭川の講演では信用金庫がスポンサーとなっていて、大変協力的である。</p> <p>スケートは、帯広が選手育成の宝庫である。日本のスケート選手を多く占めているのは北海道出身者である。2030大会においても、そこを売りにしていきたい。</p> <p>私自身、92歳であり、来年組織が大きく変わる予定であり、新しい風が吹くことを期待している。</p>
<p>6 閉 会</p>	
<p>勝木会長</p>	<p>冬季オリンピック・パラリンピック招致については、行政・競技団体・経済界の連携が必要である。競技団体連絡会議では意見交換を行うだけでなく、今後は情報発信を行うことも検討していきたい。</p>
<p>石川副市長</p>	<p>各競技団体が主管する大会や活動において、冬季オリンピック・パラリンピック招致をPRしていただく等、活発な情報発信を是非、皆様をお願いしたい。</p>